

平成 30 年 2 月 19 日
日本バス協会

インバウンド振興のためのバスサービス向上アクションプラン
(日本バス協会)

日本バス協会は、訪日外国人旅行者の利便の一層の向上とこれによる旅行者の増加を目指し、下記の内容のバスサービス向上アクションプランを策定した。

会員事業者は、それぞれ、訪日外国人旅行者の利用状況などの事業実態に応じ、順次このプラン実施に向けて、サービス向上に取り組む。また、国土交通省には、このための予算及び制度面での支援をお願いする。

記

<観光需要を取り込んだ便利で利用しやすいバスサービスの提供>

- ① 鉄道と路線バスの共通乗車券の販売
鉄道とバスの共通企画乗車券の導入を推進するなど、訪日外国人旅行者にとってこれまで以上に使い勝手の良い乗車券の導入を目指す。
- ② 訪日外国人旅行者の観光需要を取り込んだ路線バスの推進
2017 年度以降引き続き、DMO と連携した路線バスルートの設定と企画乗車券等による利用促進に努める。
- ③ 高速バス路線の充実と相互利用可能な共通乗車券の販売
2017 年度以降引き続き主要都市から直接観光地に行ける高速バス路線の充実に努める。また、各地域ブロックでの高速バス共通乗車券の販売を促進するとともに、2018 年度をめどに、全国をカバーする高速バスの共通乗車券の対象ルートの拡充と販売を促進する。

[北海道] Inter City Bus Pass

[中部] 昇龍道フリーバス

[東北] TOHOKU HIGHWAY BUS TICKET

[四国] SHIKOKU HIGHWAY 3 DAY RIDER

[九州] SUNQ パス

[全国]Japan Bus Pass

④ 魅力ある定期観光バスの振興等

- ・ 2017 年度以降引き続き、訪日外国人旅行者向けの定期観光バスのルートを充実する。
- ・ 魅力あるコース設定に合わせ、オープントップの定期観光バス、水陸両用バス等の運行による賑わいの創出に努める。

<多言語での案内の推進>

① バスターミナル、バス停留所、バス車両、観光地案内板等における多言語表示の推進

- ・ 「外国人観光旅客の旅行の容易化等の促進による国際観光の振興に関する法律」で定められた路線について、2018 年度中に外国語での案内を 100%実施する。
- ・ 上記以外の路線についても、訪日外国人旅行者の利用が多い路線については、2019 年度中の外国語での案内を目指す。(外国語表記方法のガイドラインは作成済み)
- ・ 訪日外国人旅行者の利用が多いバスターミナルにおいて 2018 年度中に Voicetra 等翻訳アプリを内蔵したタブレット等を配備する。また、デジタルサイネージ等の整備を進める。
- ・ 各社ホームページ等における多言語での情報提供の充実を図る。

② JNT0、旅行会社等と連携した多言語でのバスサービスの案内と海外での認知度向上

訪日外国人旅行者による路線バスの検索を容易にするため、2017 年度以降引き続き、経路検索システムアプリの多言語化と海外における認知度向上について、関係者との連携を進める。また、高速バスの予約サイトについても普及を促進する。

③ バス系統ナンバリング

訪日外国人旅行者の利用が多い交通結節点から観光地へのバス路線等について、どのバスに乗れば良いのかが一目で分かるようにするため、路線バスの運行系統のナンバリング方法等に関するガイドラインを 2018 年夏までに作成・公表するとともに、各地域におけるナンバリングを推進する。

<WI-FI の整備推進>

- ① 訪日外国人旅行者の利用が多いバスターミナルや主要国際空港のアクセスバス及び長距離高速バス路線について、2018 年度中に 100%の設置を目指す。
- ② 上記以外の一般路線バス、空港バス、高速バスについても、訪日外国人旅行者の利用が多い路線について 2019 年度中の設置を目指す。

<貸切バスの輸送力強化、サービス改善>

- ① 輸送力の確保
クルーズ船の入港等に対応して、2017 年度に引き続き貸切バスの輸送力を確保する。
- ② 貸切バス事業者によるアライアンス
2018 年度を目途に、貸切バス事業者が連携し、海外旅行会社等にインバウンド向け広域周遊バス旅行商品を開発・販売する。
- ③ ドライバー融通支援
2018 年度中に地域における貸切バスの閑散期と繁忙期の差を活用し、ドライバーを融通する仕組みについて実証実験を行い、制度の整備を図る。

以上

(注) 今後、アクションプランに盛り込むことを検討する課題として、トイレの洋式化がある。バス事業者が設置しているトイレの実態を把握の上、別途検討する。